

クラス番号	921	担当教員名	大濱 裕 (オハマ ユカ)
テーマ	<p align="center"> 第三世界・日本の貧困・格差と国際社会経済システム ～ 共に生きる社会の実現をめざして ～ キーワード：「国際社会経済システム」・「地域社会の自立」・「住民参加」 </p>		
ゼミナール概要			
<p>< 目的： 貧困・格差を生み出す国際的社会経済システムを構造的に理解する枠組・視点の育成・涵養 ></p> <p>今日の私たちの生活は、国境を越えた政治・経済・社会・文化の交流・融合（グローバル化）の中で互いに地球規模で深く影響しあうものとなっている。そうした中、豊かな生活を享受する極一部の人々と、人間らしい暮らしを営む基本的基盤を喪失し貧困に苦しむ社会的弱者の人々の間の際だった格差が、先進国・第三世界の別を問わず拡大しつつあるのが現状である。日本においてすらも、先の東北大震災・福島原発事故をはじめ、経済不況の更なる深刻化、社会保障システムの崩壊に見られる如く、これらの状況は年々その緊急の度合いを深めてきており、人々の生活に不安感・不透明感を色濃く漂わせてきている。ましてや第三世界（アジア・アフリカ・中南米諸国）の貧困層の人々や子供達が置かれている状況は、遙かに想像をこえる悪しき状況にあることは言うまでもない。</p> <p>今、私達に求められているのはこうした抜き差しならない状況とそれを生み出す背景要因を的確に理解し、その解決に向けた具体的な方策・手立てを見出し、そして、実行・実践してゆくことに他ならない。貧困は自然的に発生するものでもなく、特定の社会民族・集団の特性・能力から結果されるものでもなく、私達が其処で日々の暮らしを営んでいる「国際社会経済システム」そのものによって不可避免的に生み出されてくるものである。即ち、「政策」と云う「人為的思惑」によって創出され操作された結果なのである。我々、日本人が第三世界の人々の貧困問題に深く思いを致し、その掘って来る根本原因を明確に理解することの意味は、そうする事を通じて、今日の日本の問題の本質と原因所在を把握しその解決に向けた具体的方策を考えてゆく確実な一歩となる処にある。何故なら、私達はみな国・地域あるいは文化・伝統の違いに関わらず同じ「国際社会経済システム」の中で暮らしているからである。彼等の問題は私達のそれであり、また、逆も然り。国境を越えた「理解の共有」と「問題解決に向けた連帯の実践行動」にこそ、明日の未来を開く可能性が存在する。このゼミでは、そうした貧困を生み出す背景・原因を構造的にきちんと見定め、解決策を主体的に見出してゆく枠組・視点を身につけてゆくこと、また、それに必要な国際的・人間的視座を涵養することを目的としている。</p> <p>< 内容： 日本および第三世界諸国の貧困・格差の原因分析と解決策の検討 ></p> <p>前期：「食糧問題」に焦点をあて、貧困・飢餓の背景要因を「国際社会経済システム」から描き出す。 後期：「環境」、「子供・女性」、「紛争」等に対象を広げ、上記システムにおける相互関連を理解する。</p> <p>< 方法： 学生諸君の主体的な参加・協働による自主活動を基軸として経験的な学びを実践する ></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数グループによるサブゼミ活動（週2回ペース）を基本とする。 (2) 個人学習・サブゼミ論議・本ゼミ討議を「全員参加」で「毎週」実施する。 (3) 学生諸君の学習・研究に基づく「国際社会経済システムの解析図・相関図」を全員で作成する。 			
担当教員からのメッセージ			
<p>福祉の専門家であること的前提は、「社会・人間」に対する広い理解と深い認識にあります。それは私達の日常における「真剣な学び」と「弛まぬ実践的経験」によって培われてゆくものです。其処で鍛えられてゆく「生活者」・「実践者」としての豊かな「資質」こそが、現代社会が直面する諸課題の改善・解決に国境・地域を越えて連携・協働してゆく人材の求められる基本的な事柄でしょう。そうした「専門家」を目指して共に語り、論じ、「我苦悶（学問）」の道を歩んでみようと云う熱い心を持った学生諸君、「ケジメ」を弁え大切にする学生諸君の参加を期待しています。 おいでませ！</p>			